

受付	代表質問	第 号
	令和 年 月 日	時 分

一般質問＜個人＞発言通告書

令和8年5月25日

長久手市議会議長 殿

長久手市議会議員 田崎あきひさ

会議規則第59条第2項の規定により下記のとおり通告します。

	質問事項及び要旨	備考
1	<p>市民への課税誤り等に関する佐藤市長の認識について</p> <p>本市では令和8年4月公表の道路占用料等の徴収誤り事案をはじめ、過去には都市計画税の課税誤り、軽自動車税の課税誤り、個人住民税の課税誤り、国民健康保険税や介護保険料の算定誤り、遺児手当の過払い、国民健康保険出産一時金の支給誤りなど、複数年度にわたり市民からの信頼を損ねる事務処理ミスが報告されている。</p> <p>(1) 相次ぐ事務処理過誤について、市長はその根本原因をどのように認識しているか。</p> <p>(2) 組織のチェック体制、業務引継ぎ、法令確認体制等に構造的課題がある可能性があると考えますが、市長はこの認識を持っているか。また、どのプロセスに課題があるか分析結果を問う。</p> <p>(3) 市長はどのような責任を感じ、市民に何を伝えたいか。</p>	
2	<p>市長の財政収支見通しと今後の市政運営について</p> <p>「見える」「届く」「変わる」を掲げて当選した佐藤市長へ、まちづくりビジョンの考えと施政方針等を問う。</p> <p>(1) 財政収支見通しでは令和10年度以降の歳出超過が示されている。また、市長は中期・長期財政計画について「実態に合わなくなっている」と認めているが、本年5月作成の財政収支見通し（令和8年度～令</p>	

	<p>和12年度)に市長はどのような実効性を持つと考えているか。</p> <p>(2) 令和9年4月に予定している使用料・手数料改定は総枠でどの程度の住民負担を求めるのか。</p> <p>(3) 令和8年度予算編成では財政調整基金から当初7.5億円の繰入れを見込んでいたものの、結果として10.5億円の繰入れが必要となった。</p> <p>令和9年度と令和10年度は令和8年度予算と同等の10.5億円程度の繰入れが必要であると表明しているが、市長は令和8年度の見込み違いをどのように評価し、今後の見通し精度向上をどのように図る考えか。</p> <p>(4) 令和10年度以降で歳出超過が見込まれ、行政運営のランニングコストである経常的経費は、令和10年度までは歳入の一般財源で賄うことができるが、令和11年度以降はほぼ同じ額になり余剰がないと述べている。一般財源の余剰がほぼなくなる見通しのなかで市長はどのような第7次総合計画を策定する考えか。</p> <p>(5) 財政収支見通しには、速やかに実施できる方策等を明記しているが、歳入確保及び歳出削減について、具体的にいつまでに総額いくらの効果を見込んでいるか。</p> <p>(6) 「公共施設等管理基金」の残高は、令和8年度当初予算において8億5,600万円とされているが、令和12年度末には2,900万円へと著しく減少する極めて深刻な予測が示されている。基金が底をつくことが分かっている以上、場当たりの概算に頼るのではなく、本市が抱える公共施設全体の修繕・更新に係る「将来的な予算不足額(バックログ)」を今こそ精査・把握すべきではないか。</p> <p>(7) 「誰が首長でも同じような状況に直面する」旨の答弁をしているが、佐藤市長は任期残り1年余りで実現に至らない公約を含め、何を達成したいと考えているか。</p>	
3	<p>市民の生活基盤の整備について</p> <p>(1) 中央図書館の時計の更新について現在の考えを問う。</p> <p>(2) 「命の問題だ」「緊急性が高い」と答弁してきた小中学校の体育館空調はこれ以上遅滞なく設置できるか。</p> <p>(3) 市民野球場及びスポーツの杜野球場における硬球の使用について、現状の課題、今後の方向性を問う。</p> <p>(4) 保育士のスポットワークができない根拠や今後の方向</p>	

	性について本市の考えを問う。	
--	----------------	--